

207) あなただけに逢いたくて

パステルカラーに墨を流して 雨はしっとり街を包んだ
どうして春はぼんやりとした こんな景色をつくるのだろう
4月になればそれぞれ別の 道を歩いて何かが終わる
あなただけに逢いたくて あなただけに逢いたくて
思い出のこの街を ただ一人歩いてた

二人乗りした白い自転車 あなたの肩に顔をうずめて
通学してたあのころの日々 時が残した遠い思い出
いつも一緒の学生時代 愛していると思わなかった
あなただけに逢いたくて あなただけに逢いたくて
水たまりよけながら ただ一人歩いてた

はなればなれになって初めて あなたのことを愛していたと
気づいた時はもう遅すぎて あなたは遠い存在だった
あなたの写真今も離さず 手帳の中にだいじにしてる
あなただけに逢いたくて あなただけに逢いたくて
人混みをジグザグに ただ一人歩いてた

傘もささずに雨を歩けば 思い出ばかり通り過ぎてく
言葉に出していえなかったの 愛してたのはただあなただけ
あなたのことは心のすみに お嫁に行くまで残しておくわ
あなただけに逢いたくて あなただけに逢いたくて
うしろ髪ひかれつつ この街をあとにした